

# HEART POWER CHALLENGE

唐津市立成和小学校便り

令和8年度 第 3 号

令和8年 6月 5日

文責 校長 坂口 博之

学校教育目標

「ハート」 「パワー」 「チャレンジ」



学校 HP



あたたかく、力強く、自分らしく、夢や目標にチャレンジする成和っ子の育成

## 多文化共生の地域づくりは佐賀県の課題

### 1 【外国人県民数の推移】

全国的な少子高齢化の進行に伴い、生産年齢人口は減少している中で、活力ある地域をつかっていくためには、外国人を含む全ての県民が安心して生活し、活躍していく環境を整えていくことが不可欠です。

県内の外国人県民に目を向けると、平成29年に5,000人、令和2年には7,000人を超えました。その後、新型コロナウイルス感染症の水際対策により、新規入国者が激減したため、令和3年から減少に転じたものの、令和4年に水際対策が緩和されたことで再び増加に転じ、令和7年1月1日 現在では11,175人と過去最高となっています。

### 2 【県内市町の外国人県民数】

市町別では、在住外国人数は佐賀市が最も多く(2,913人)、次いで鳥栖市(2,166人)、唐津市(1,169人)と続いています。上位3市に県全体の50%を超える外国人住民が集中しています。

### 3 【外国人県民の国籍内訳】

国籍別では、ベトナムの2,928人が最も多く、次いでインドネシア2,061人、ネパール1,358人、ミャンマー1,072人となっています。その他では、アジアやヨーロッパだけでなく、中南米、大洋州、アフリカ等、多様な国籍・地域の外国人が県内に在住しています。

### 4 【多文化共生の社会づくりを進めていくことが課題】

外国人県民は、お客さんや単なる労働者ではなく、生活者として佐賀県に暮らす私たちと同じ県民です。日本人とは、国籍や文化等が異なりますが、同じ地域の構成員として、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築いていくこと、いわゆる「多文化共生」の社会づくりを進めていくことが、地域の活力や発展にとって重要な課題となっています。

引用：「さが多文化共生アクション」（令和7年度版）より

街中を歩いていて、外国人県民の方々見かける機会が多くなりました。大人だけでなく、子どもの姿も見かけます。私が自宅近所で犬の散歩をしていて、すれ違うときもお互いに気持ちよく挨拶を交わしています。

今年度、成和小学校にも外国籍の児童が2人入学してきました。現在、日本語の学習も受けながら、周りの児童と一緒に学校生活を送っています。私は、素敵な出会いをさせていただいたと思っています。文化の違いを素敵な違いにとらえ、新しい発見、新しい学びをしていきたいと考えています。国籍に関係なくお互いを理解し、尊重し合って、学校をあたたかい場所にしていきたいと考えています。

この思いを、全校児童や職員に知ってもらいたく、5月28日(木)の全校集会において、「みんなちがってみんないい」（多文化共生について）というテーマで話をしました。

※裏面に続く



# 「みんなちがってみんないい」多文化共生について

5月28日（木）全校集会 校長講話より

今日は、「みんなちがってみんないい」というテーマで、多文化共生について話をします。

多文化共生という言葉は、少し難しい言葉ですね。「多文化」とは、いろいろな文化、国や地域の違いのことです。「共生」は、一緒に生きていくことです。つまり、多文化共生とは「いろいろな考え方や文化を持った人たちが、お互いを大切にしながら一緒に生きていくこと」です。それぞれに違った文化があります。

成和小学校にも、話す言葉が違う友達、食べるものや習慣が少し違う友達があります。でもそれは、「変わっている」ことではなく、「素敵な違い」です。



世界の素敵な違いの例を挙げてみます。たとえば、あいさつ。日本では、お辞儀をします。アメリカでは、手を振り「ハロー」と声をかけます。タイでは、手を合わせます。合掌と言います。

食文化、食べ物も素敵な違いがあります。

日本では、白ご飯を多く食べます。

インドではインドカレーを食べます。

イタリアではピザを多く食べます。



行事(祭り)にも素敵な違いがあります。中国では、「春節」というお正月のお祝いがあります。アメリカでは、「ハロウィン」が有名です。インドでは「ディワリ」という「光のお祭り」があります。

みなさんは、運動が得意な人、絵が上手な人、勉強が得意な人、よく働く人、人にやさしい人など、それぞれが違った良さをもっています。文化や国の違いもそれと同じです。違いがあるからこそ、新しい発見があり、世界は広がっていきます。

それでは、多文化共生を進めていくために、私たちにできることはどんなことでしょうか。

一つ目は、「知ろうとすること」。相手のことを「分からない」と思って終わりにするのではなく、「どんな文化だろう」「どんな考えだろう」と、興味をもってみるのが大切です。

二つ目は、「思いやること」です。言葉がうまく伝わらないとき不安を感じる人もいます。そんなとき「大丈夫だよ」と優しく声をかけたり、ゆっくり話したりすることが、大きな支えになります。

三つ目は、「違いを認めること」です。「自分と同じでないからダメ」ではなく、「違うからこそ学べる」と考えることが大切です。みなさん一人一人の小さな行動が、学校をあたたかい場所にし、そして、世界へとつながっていきます。

## 「みんなちがって、みんないい」

この言葉を大切に、これからもお互いを尊重しながら

楽しい学校生活を一緒につくっていきましょう。

「言葉が違って、やさしさは伝わる」と思います。



Web サイト:

<https://www.education.saga.jp/hp/seiwa-e/>

連絡先:

0955-75-0174

メール アドレス:

[seiwa-e@education.saga.jp](mailto:seiwa-e@education.saga.jp)